

2

こうきょう し せつ やくわり り よう し かた 公共施設の役割と利用の仕方

🔗 学びのつながり：『くらしに役立つソーシャルスキル』

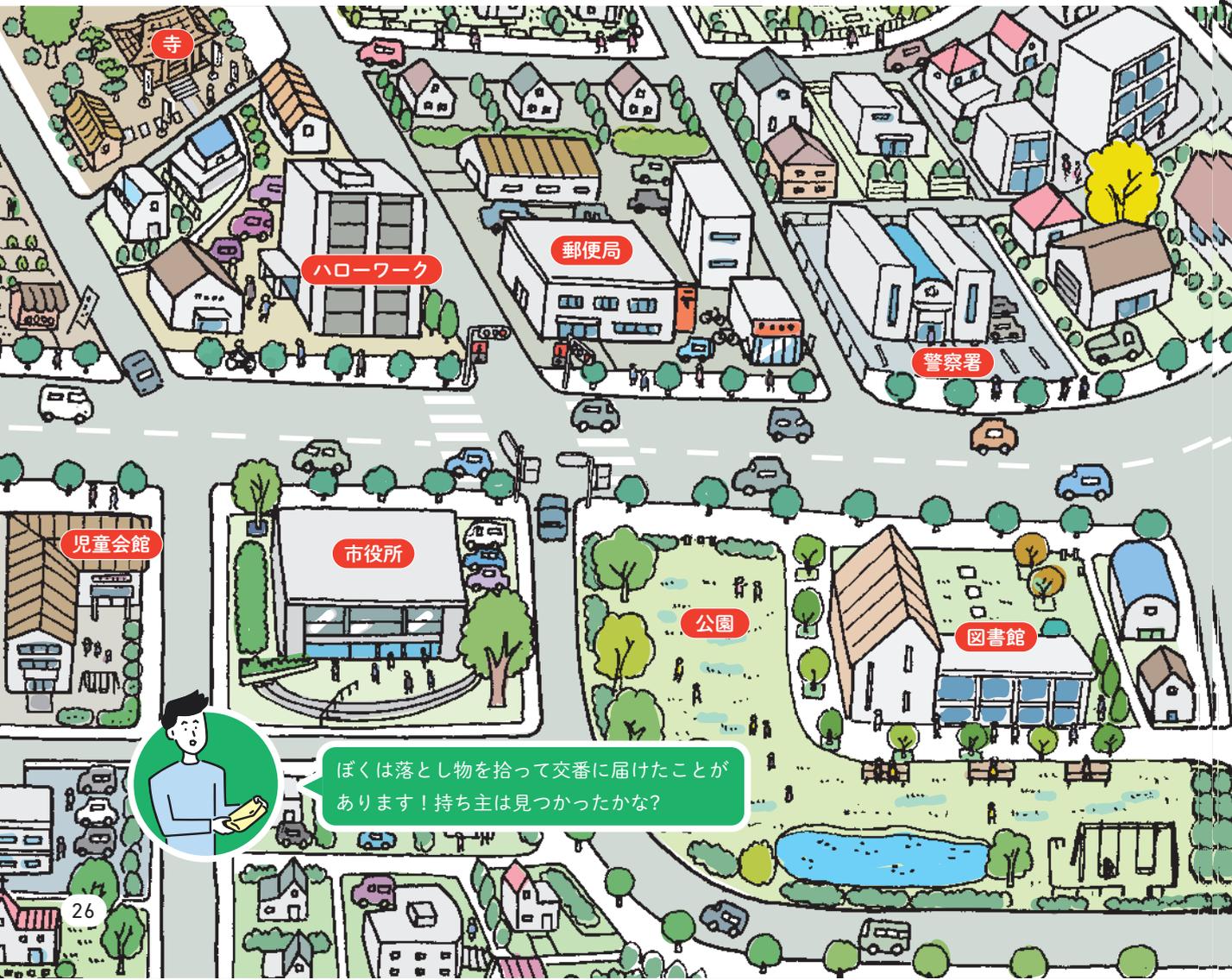


学習しよう

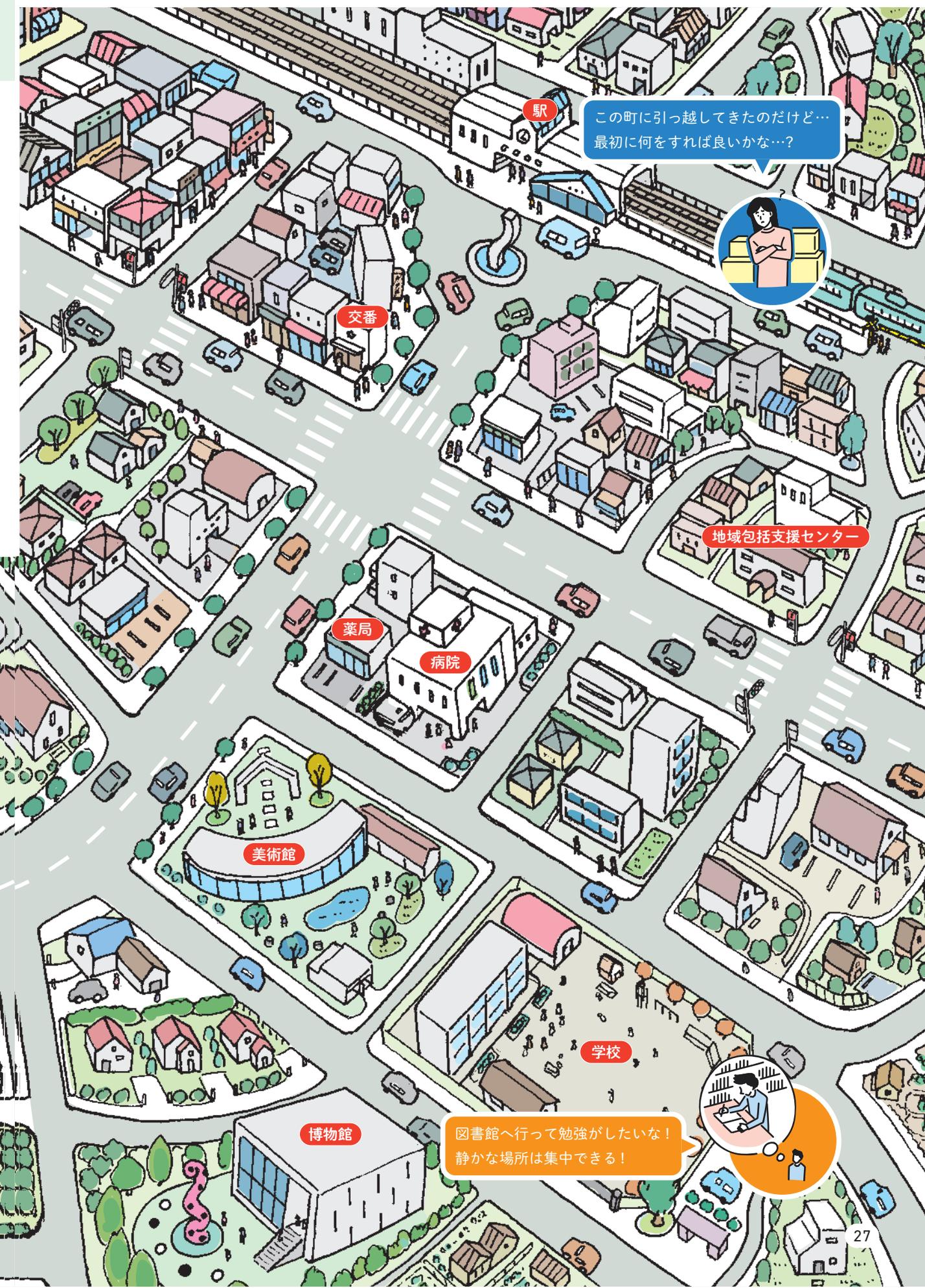
ちいき 地域には、さまざまな公共施設があります。公共施設の適切な利用方法と役割を考え、将来の生活にどのようなつながりがあるか考えてみましょう。

発見

わたし 私たちは、日常生活のなかでどのような公共施設を利用しているだろうか。利用したことのある施設を探してみよう。



ぼくは落とし物を拾って交番に届けたことがあります！持ち主は見つかったかな？



駅

この町に引っ越してきたんだけど…
最初に何をすれば良いかな…?



交番

地域包括支援センター

薬局

病院

美術館

学校

博物館

図書館へ行って勉強がしたいな！
静かな場所は集中できる！



調べよう

私たちの町の公共施設マップを作ろう。



自分たちの町にある公共施設の^{しゅるい}種類や場所を調べ、地図に表してみましよう。

〈作り方の例〉

施設の名称 <small>めいしょう</small>	
例：北方民族資料館 <small>みんぞくしりょうかん</small>	

地図を作ってみて、分かったことや気づいたことを話し合いましよう。



公共施設とはどのようなものか指すのが分からなかったけれど、調べてみると自分の家の近くにもあることが分かりました。

公共施設の場所を地図に表してみると、町には資料館や文学館などの公共施設が集まっている場所があると分かりました。



調べよう

学校の周りにある公共施設の役割や使い方について、調べよう。

1. 役所(市・区役所、町・村役場)の役割

私たちの住んでいる市区町村には役所があります。役所は、住民として必要な届出や証明書の発行など、私たちのくらしを守るための仕事をしています。

役所には、住民票や戸籍を^{しゅうみんひょう}あつかう課、^{こせき}障害について^{しょうがい}あつかう課、年金や保険を^{ほけん}あつかう課など、たくさんの^{まどぐち}窓口があります。

● 住民票

住民登録^{とうろく}をすると、住民基本台帳^{きほんだいちょう}が作成され、これにもとづいた住民票が発行されます。引っ越し^{ひっこし}をした場合には、必ず役所^{とど}に届けます。他市などからの引っ越しのときは「転入届」、他市などへの引っ越しのときは「転出届」を出します。



住民票

2. 警察署、消防署の役割

全国には、都道府県警察本部(東京都は「警視庁^{けいしちょう}」)のもとに、約1,150の警察署と約1万2,000の交番・駐在所^{ちゅうざいしょ}が設置^{せいち}され、犯罪^{はんざい}の予防・捜査、被疑者^{ひぎしゃ}の逮捕、交通の取り締まり^{とどし}などを行っています。

消防署は、火災や自然災害などから、24時間体制で国民の安全を守り、安心を支える防災機関^{ぼうさいきかん}です。地域住民で構成された消防団が設置されているところもあります。

● 通報するとき

火事や事故を見かけたり、自分が当事者となったときは通報します。

- ① 「110番です。事故^{じこ}ですか？ 事件^{じけん}ですか？」 「119番です。火事ですか？ 救急ですか？」 などと聞かれるので、はっきりと伝えましょう。
- ② 事故でも、火事でも、「どこで、何が(だれが)どうしたのか」をあわてず、落ち着いて伝えましょう。



私たちがふだんの生活のなかで利用している公共施設には、ほかにどのようなものがあるでしょうか。調べてみましょう。

考えよう

自分の住む地域に公共施設がなかったら、暮らしにどのような影響があるだろうか。



すぐに必要な手続きをとることができないので、困る。

手続きなどをあきらめてしまうかもしれない。



遠方まで出かけなくてはいけないので、大変だ。

事故や事件が起こったときに救急車や消防車が到着するまでに時間がかかってしまう。



一緒に

考えよう



私たちが公共機関を利用するときには、どのような手続きが必要だろうか。

● 企業などへの就労

公共職業安定所(ハローワーク)は、国が運営する機関で、仕事を探している人に仕事の紹介や、求職の仕方など、さまざまなサービスを提供しています。ハローワーク内には、みどりのコーナー(窓口)という障害のある人向けの窓口があり、専門の相談員が支援を行います。

● 福祉事業所の利用

就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所などで訓練等の支援を受ける場合には、市役所などで福祉サービスの利用を申請し、受給者証を発行してもらったうえで各施設と利用契約を結ぶ必要があります。

● その他の福祉サービスの利用

相談支援事業所では、障害のある人やその家族から相談を受けて、相談支援専門員がさまざまな情報を伝えることや、福祉サービスを受けるための手続き、助言などを行います。

調べよう

自分の将来の生活を想定し、利用する可能性のある公共施設を調べよう。

自分の将来の生活を想像してみましよう。そのなかで、自分が利用することが予想される公共施設を考えてみましよう。また、その施設にはどのような役割があるのでしょうか。



ワークシート

将来の生活を想像してみよう

くらしの窓

地域包括支援センター

「地域包括支援センター」とは、地域住民が住み慣れた地域でいつまでも安心・安全にくらせるように支援することを目的とした公共施設です。

利用者は高齢者の方が多いですが、地域包括支援センターは世代を問わず困りごとを抱える人のための地域の相談窓口です。相談料はかからないので、何か困ったこと、不安なことがあった場合は相談してみましよう。

深めよう

身近な場所にある美術館や博物館で余暇を過ごしてみよう。



博物館とは「資料を集めて保管し、調査研究して資料の価値を調べ、その成果を展示やいろいろな方法で発信し、すべての人々に学びや楽しさを提供する機関」です。博物館は、総合博物館、歴史博物館、美術博物館、科学博物館、動物園、水族館、植物園、動植物園、野外博物館などの種類があります。博物館では、さまざまなものを見たり、触れたりすることができます。

ここでは、その一例として「アイヌ民族博物館」について紹介します。

● アイヌ民族博物館

アイヌ民族は日本列島北部周辺、北海道の先住民族です。北海道白老郡白老町にある民族共生象徴空間（ウポポイ）は、令和2年7

月に一般公開され、その施設内には、国立
アイヌ民族博物館や民族共生公園、慰霊施設
などがあります。

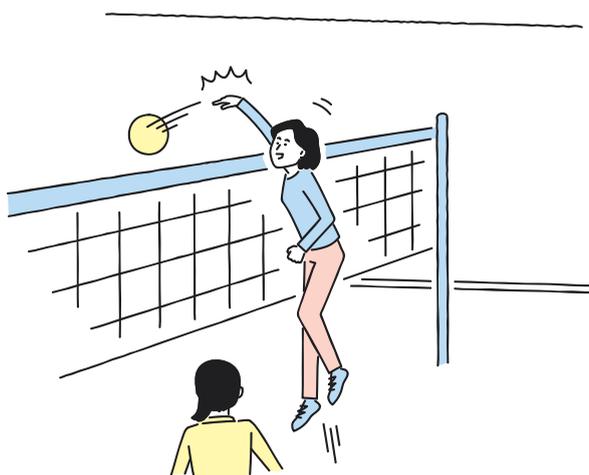
国立アイヌ民族博物館には、アイヌ民族
が生活に使う道具をはじめ、アイヌの歴史
や文化にかかわる資料などが展示されてい
ます。また、体験を通してアイヌ文化に触
れられる施設などもあります。館内および
展示室のパネルや表示には、アイヌ語での
表記もされています。



国立アイヌ民族博物館



アイヌ民族の衣装



🔍 調べてみよう
文化庁博物館総合サイト



ふり返ろう

学習を通して、分かったことをチェックしてみましょう。

- 身近な地域にはさまざまな公共施設があり、目的やライフステージに応じてさまざまな役割があります。
- 公共施設の利用の仕方を調べ、上手に活用することで、生活が快適で便利になります。

マイナンバーカードを活用しよう

マイナンバーカードは、カードの表面に顔写真と氏名、住所、生年月日、性別せいべつが記載され、裏面には、12桁のマイナンバーとICチップつけたがあります。

このマイナンバーカードはさまざまな場面で活用することができます。



表面



裏面

マイナンバーカードの活用例

● 本人確認書類として

表面は本人確認書類として、また裏面は個人番号こじんの提示を求められた際に活用できます。マイナンバーカードがあれば、一枚で本人確認と個人の番号の確認ができます。



● 健康保険証として

専用のサイトやアプリから登録すると、マイナンバーカードを健康保険証として活用することができます。



🔍 調べてみよう
マイナンバーカード



● コンビニエンスストアなどで公的な証明書を取得できる

市区町村が発行する証明書（住民票の写し、印鑑登録証明書等）が全国のコンビニエンスストア等のマルチコピー機から取得できます。

マイナンバーカードをコンビニエンスストアでの年齢確認や、出退勤システムしゅったいきんに活用している例もあります。今後、さらにマイナンバーカードが活用される場面が増えていくでしょう。ただし、マイナンバーカードは個人情報ねんれいの入った大切なものなので、管理に気をつけましょう。



さまざまな公共機関のはじまり

公共機関には「市役所」「美術館」「博物館」「図書館」「警察署」「消防署」などさまざまあります。さて、そのはじまりはいつ、どのような形だったのでしょうか。

日本の現在の中央官庁のはじまりは、701年の大宝律令^{たいほうりつりょう}*制定のときといわれています。二官八省^{にくわんはっしょう}とって、現在の宮内庁や財務省のような役割があったそうです。

また、江戸時代には、現在の戸籍や住民票にあたるものは寺が管理していたそうです。さらに明治時代には廃藩置県^{はいはんちけん}によって、今の都道府県の前身となる自治体が定められました。当時は3府302県もあり、それぞれに現在の都道府県庁のような役所が設置されました。その時代に市町村ができ、さまざまなサービス^{ていききょう}が提供されています。

日本の博物館のはじまりは19世紀末、明治5年の東京国立博物館の開館といわれています。そのときの博物館は、博覧会の開催^{かいさい}が目的であったため、書画骨董^{しやうがこつどう}や珍しい物を集めたものでした。その後、大正時代に日本初の公立美術館(現在の東京都美術館)ができました。

日本の図書館のはじまりは、聖徳太子の時代(7世紀前半)で、中国からの仏教^{ぶつ}の伝来と関係しています。また、紙もこの頃に伝来してきました。この時代の図書館は、図書だけでなく、仏像の管理、紙や墨、筆など書写の材料の管理もしていました。

なお、消防署のはじまりは江戸時代で、「火消」といわれていました。時代劇のドラマで見たことがあるでしょうか。このようにいろいろな公共機関の「はじまり」について調べていくことも、「歴史」を学ぶ第一歩になります。

* 日本ではじめてできた体系的な法律



火消の道具